会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回共通基盤整備事業実施委員会 |
| 開催日時 | 令和3年10月22日（金）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | 福岡 リファレンス駅東ビル貸会議室 Y-2（オンライン併用） |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：五十部　昌克、岡村　慎一、松田　義弘、谷　昌一、川越　浩、山根　大助　　　　　　　　　　　　　　　　　　計7名（オンライン参加）増子　卓矢　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　請負業者：八木　信幸、飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　計2名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計10名 |
| 議題等 | 1. 自己点検・評価モデルの検証調査結果について（八木）

・アンケートに回答いただいた収集リストをまとめた。回答いただいたのは総数51校となっているが、その他にも6校ほど回答をいただいている。6校分が結果に入っていないが、傾向は変わらないと考える。6校追加したものは後日更新する。・結果集計については、自校の自己点検項目と一致している学校が40校以上のものに青色に色付けをしている。一方、黄色に色付けした項目は極端に少ないもの。・修正変更を求めるデータについては、10校以上要望が合った項目はピンク、3～9校以上については黄色で色付けをした。・自由記述については、各校から寄せられたものを集約している。・ピンク色や黄色の部分については、分かりにくい項目となるので、手引きを作成する際に、重点的に説明を加え分かりやすくしたい。また、自由記述欄にある「分からない部分」については、それに応える形で手引きを作成したいと考えている。　【意見等】・色付けされた項目は変更をかけていくということで良いか。（高岡）→カテゴリーAは文科省から出されている文言を使用しているので極端に変更することはないが、B、Cは変更を検討する。3-2-85などは修正変更の要望数が多いが、項目自体を変更するのか、より具体的に実施しているなど説明を厚くするか、作成する上でご意見を聞いていきたい。（八木）→意見を出していただいた学校に確認はするのか。（高岡）→明確に書かれているところは少ないので、現状そこまでは考えていない。修正要望の理由やその他自由記述の内容を考慮してどのように変更するか検討したい。（八木）・ピンク色の項目はカテゴリーCが多いが、1-2-1などAで該当する項目は理由としてエビデンスが分かりにくいという理由が多いと感じるが、エビデンス例を提案するということか。（五十部）→エビデンス例の追加と整理、手引きで解説を加えるなど両面で対応したい。（八木）・9-2は必要な項目ではあるが、修正要望が多く、その理由が「質の向上につながらない」が多い。またコメントに“有効かつ妥当”という表現が抽象的であるとあるが、このような場合についてはどのように対応するのか。（山根）→大方のものについては、こちらから対応案を提示する予定だが、このような項目については委員会で委員の皆さんにご意見を伺い揉んでいきたいと考えている。次回の委員会では変更が必要な項目の具体的な対応を提示する予定。（八木）→当校で実施している自己点検でも抽象的な表現など同じような話が出ているが、まずは妥当性を判断しその後内部監査で判断するように話している。（松田）・これだけまとめていただいて大変な労力だったと感じている。（川越）・以前全専研で自己点検評価をする際の手引きを作成したが、それでは足りないのかという話が出た。調査結果から全専研仕様が採用されていたかどうかは分かるのか。（高岡）→全専研のものは複数あるものの一つとしてあがってきてはいる。第三者評価を実施している学校は第三者評価機関からの指示があり、複数の機関それぞれの指示をすり合わせてまとめたもの。カテゴリーCが全専研独自のものが多い。ABCのカテゴリーは全専研のものをいかしている。（八木）→当時は職実申請の前で、どのようにしたら分からないということがあり、文科省の項目をベースにして全専研仕様を作成した。狙いは「簡単にできること」で、○か×かで判断できるように、またチャレンジ的な一歩進んだ項目を含めた。それを元に各校が活用しながら自校に合わせていったという経緯がある。企業との連携が取れているかなど専門的な職業教育の学校評価がどのようにできているかを入れていくことが必要。（岡村）・評価に悩む項目などは一つ一つ検証していくことで答えが出しやすくなると感じた。（谷）・特段の意見はなし。（増子）1. 第三者評価機関への調査と学内監査・推進者育成プログラム調査について（五十部）

　（1）文科省及び私立専門学校等評価研究機構との打合せ内容報告・10月11日にヒアリング調査趣旨などの事前説明としてオンライン打ち合わせを実施し、調査依頼については承認いただいた。・私立専門学校等評価研究機構の関口様から下記の意見をいただいた。この意見を踏まえて評価項目について修正・追加等検討したい。①審査項目の「教学マネジメント」の言葉について、言葉の変遷があり、それぞれ意味があるので「職業教育のマネジメント」とした方が良いのではないか？②評価機関の事業目的、社会的な存在として事業を行っているのか、誰にとってのどんな意義を目指しているのか。③どんなメリットを提供しようとしているのか。④学校の改善に対して、どんな改善にどのような方法で結び付けようとしているのか。⑤評価結果の公表について自己評価報告書も公開するのか、結果だけ公開なのかの確認。（2）第三者評価機関への学内監査・推進者育成プログラム調査項目の修正検討について・「教学マネジメント」の言葉他関口様の提案についてはどうか。→現地審査項目案はJAMOTE認証サービスで実施している項目をあげている。他に分かる限りで専門職高等教育質保証機構と私立専門学校等評価研究機構の実施している項目を入れている。教学マネジメントという表現を変えるのみで、項目についての変更などは無いと感じている。追加の質問の提案に関しては、審査活動の概要についての（4）に小項目として追加すると違和感がなく追加できると考える。（八木）→同意。文科省は分野別の第三者評価にしたいという思いが強いと感じたが、実際の状況とは剥離がある。先方の事業では分野別の評価機関の設立や第三者評価の補助金などのメリットを進めて行けるように、分野別の連絡協議会を作る動きが進められているが、分野別に入れないような職業団体が無いような分野を統括できるようなものを提案することが私たちの来年度の宿題と考える。その上で今回のヒアリング調査で、認証評価はどのようなことをしているか、関わる審査員、評価を受けるために学校で人材が必要か、を紹介できるようなものを作成していくということに合意をいただきたい。専門的な部分は分野別、機関別からマクロを出してもらえるというようなスキームが収まると専門学校もやりやすい。（岡村）・評価機関での審査員や評価者の育成の実施未実施は把握しているのか。（岡村）→内部監査員育成は私立専門学校等評価研究機構とJAMOTE認証サービスのうしろだてのものをTC財団で実施している。JAMOTE認証サービスは内部監査員養成と審査員の養成を実施している。その他は把握していない。（八木）・菊田氏のご意見についてはどうか。（飯塚）→もう少し区別したほうがいいという問題定義ではあるが、考え方として同じなので、現状で対応できていると考えている。（八木）1. 三者評価機関への調査担当者・日程調整について（五十部）

・私立専門学校等評価研究機構…11月9日(火)14:00～・JAMOTE認証サービス…他ヒアリング調査日程と合わせる。・リハビリテーション評価教育機構…調整中・専門職高等教育質保証機構…今後調整・職業教育・キャリア教育財団…先方の状況を見て調整。第三者評価への考え方等のヒアリングと、以前TC財団の評価に携わった際の情報をまとめ、確認いただくことも視野に入れ、菊田氏に確認する。・ヒアリング項目については本日の内容を反映、依頼書文書はSlackにあげたもので問題なければ、調査日程前（10月中を目途）に合わせて提示する。・調査担当者は調査日程が決まったら参加者を募ることとする。1. その他

・調査時の交通費については、日程・場所が決まった時点で交通費フォームを作成するので、それを提出いただき後日支払うことになる。・第2回運営委員会…11月15日（月）13:00～東京にてハイブリッド開催・第4回実施委員会…12月13日（月）13:00～岡山にてハイブリッド開催 |
| 配布資料 | ・令和３年度共通基盤整備事業第3回実施委員会\_議題・00 自己点検評価シート検証・収集リスト\_20211011・01 自己点検・評価表モデル検証シート\_集計結果20211018・資料１\_全専研\_文科省\_私立専門学校等評価研究機構\_打合せメモ\_20211011a・資料２\_別紙１第三者評価を実施している機関へのヒアリング調査について・資料３\_別紙２学内監査・推進者育成プログラム作成のためのヒアリング |

以上